

WILLIAM PETER BLATTY'S
THE EXORCIST

Directed by WILLIAM FRIEDKIN

ウィリアム・ピーター・ブラッティ 作品

エクソシスト

監督ウィリアム・フリードキン



この家の少女に 想像を絶する何かが起きている！ すべてを託された男
《エクソシスト》の生命を賭けた闘いが——いま始る！



1974年度アカデミー最優秀脚色賞・最優秀録音賞受賞 ■ 1974年度ゴールデン・グローブ最優秀作品賞・最優秀監督賞
最優秀脚色賞・最優秀助演女優賞受賞

エレン・バースタイン/マックス・フォン・シドー/リー・J・コップ/キティ・ウィン/ジャック・マッゴラン/ジェーソン・ミラー(カラス神父)
リンダ・ブレア/ヘリーガン/製作:ウィリアム・ピーター・ブラッティ/製作総指揮ノエル・マーシャル

原作・脚色ウィリアム・ピーター・ブラッティ/ワーナー・ブラザース映画 From Warner Bros.  A Warner Communications Company

エクソシスト

WILLIAM PETER BLATTY'S
THE EXORCIST

Directed by WILLIAM FRIEDKIN



■解説

時は20世紀も後半の現代、ところはアメリカ合衆国の首都ワシントン。そこにロケ撮影のため滞在中だったハリウッドの人気女優の12歳になる娘に悪魔がとりついた。カトリックの神父さえも最初は信じられなかったこの悪魔の存在を、可憐な少女の体内から追放するため、彼はみずから悪魔払い師(エクソシスト)の助手となり、年老いたこの高名な神学者とともに血も凍るような悪魔との戦いを展開する――。

ウィリアム・ピーター・ブラッティが書いて、すでに1千万部近くを売りつくしたといわれる原作小説をブラッティ自身が脚色し、製作までも買ってでて1年ぶりに完成した。

監督は「フレンチ・コネクション」で、1昨年のアカデミー賞を受賞したウィリアム・フリードキン。主演はエレン・バースタイン(ラスト・ショー)、ジェソン・ミラーという若手演技派ふたりに、全米をスカウトして選んだ14歳の少女リンダ・ブレアーを加え、このトリオをスウェーデンの名優マックス・フォン・シドー(処女の泉、第七の封印)、アメリカの名優リー・J・コップ(波止場、12人の怒れる男)がバックアップするという完璧な布陣である。

音楽はクリス・ニューマン、他。技術顧問としてカトリックの高位聖職者や医学界の権威たちが多数参加しているのも、今までの映画には余り例をみないことであろう。

〈上映時間——2時間02分〉



凄い！面白い！怖い！ それが〈エクソシスト〉の合言葉

- 村山 明さん……これほどまでに僕の心を映画の中に引きずり学生(高1)15才 こんだものはない。完全に僕はこの映画にのろわれたかのように数日の間すべての場が頭から消えなかった。
- 樋口真也さん……やることなすことすべて型やふりにすごい。学生(高2)16才 はっきり言って見なければよかった。2日間ほどねむれなくてひどいめにあったからである。とにかくすごい映画だ。
- 萩田健二さん……想像を絶する恐い映画だ。見終わった直後より学生(高2)16才 あくる日の今のほうが不気味である。夜は恐しくて寝むれなくらいで、1人いるときはとてもこわい。
- 森下 薫さん……恐くて、恐くて……。外へ逃げるところか、学生(高3)17才 足が動かないのです。友だちも、わたしも目をつぶってお互いにしがみついているのが、せいっぱいでした。帰りは、何度も何度も後をふり返ってしまいました。
- 池田昌代さん……内容がとてもおもしろく、テクニックがすばらしい。秘書・20才 こわさより、びっくりしました。
- 佐藤幸子さん……恐い、本当に恐ろしい。20世紀のこの世の中で実際に起こったなんて信じられない。身の毛もよだつとはまさにこの映画の事だ。ラストシーンに入るとやっとな肩の荷がおりたようにホットする。会社員・20才
- 杉本 真さん……とにかく予想以上のショック。観た後も身体は小刻みに震え、硬直していました。言葉で表現するには余りにも大き過ぎるショックであり、結局「恐かった、すごかった」を連発する他はないようです。7月13日といわずにもっと早く、もう一度見たい。年・21才
- 境原登志子さん……大変おもしろい映画でした。今でもあの少女の顔と声が忘れられず、恐怖の中に引きずりこまれるような気がする程です。私はこんな映画が、こわいとはいえ大好きです。大学生・22才
- 山本桂子さん……最高にコワイ映画。胃がおかしくなり、トイレにかけ込みたくなったのも数回あったが、目を手でおおいながらも、コワイもの見たさの好奇心が、私を椅子に釘付けにしてしまった。自由業・22才